動検時報

Vol.51-2　2018.4

○ What's New !

動物検疫所には、今年も新しい仲間が加わりました。

横浜本所４名、成田支所３名、中部空港支所及び関西空港支所にそれぞれ２名、川崎出張所、北海道･東北支所、羽田空港支所及び神戸支所にそれぞれ１名、消費･安全局での研修５名、総勢 20 名です。

これからよろしくお願いします。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ 動検時報　第２号　目次 ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

◎動物検疫所長　就任挨拶　伊藤 和夫 …… 3
退任挨拶　小倉 弘明 …… 4

◎　トピックス

・平成 29 年度業績発表会について（精密検査部危険度分析課） …… 5
・平成 29 年度支所長会議（第２回）の概要について（企画管理部企画調整課） …… 5

◎　動物検疫関連情報

・北海道宗谷地方における外国人技能実習生への動物検疫説明会について
（北海道・東北支所） …… 6
・羊腸消毒所の歴史（検疫部畜産物検疫課） …… 7

◎　所内情報

・所内研修履歴（１月～３月）（企画管理部調査課） …… 8
・１年間を振り返って（平成 29 年度採用者） …… 8
・人事異動（平成 30 年１月２日～４月１日） …… 11

◎　畜産物・動物の輸出入検疫数量実績（企画管理部調査課） …… 17

◎　平成 30 年１月～３月の出来事 …… 19

◎　動検通信（企画管理部企画調整課長） …… 20

◎動物検疫所長　就任挨拶

伊藤　和夫

４月１日付けで動物検疫所長を拝命いたしました。

前職は消費・安全局動物衛生課国際衛生対策室長で動物検疫を担当していましたが、動物検疫所勤務は平成７年の門司支所福岡空港出張所以来約23年ぶりとなります。

家畜衛生分野における我が国を巡る情勢は厳しい状況にあり、近隣国では口蹄疫や鳥インフルエンザなどの越境性動物疾病の発生が継続しています。こうした中、本年３月末には韓国において口蹄疫の再発があり、現在、防疫措置の総点検、韓国からの航空機、フェリー等の到着空海港を中心にした動物検疫対応の強化を実施しています。また、九州や北海道では関係道県と連携して、出入国の旅行客に対し注意喚起のための緊急キャンペーンを実施しているところです。

こうした中、年々訪日外国旅行客が増加し、2017年は前年比19.3％増の約2869万人と統計開始以来の最高記録を更新しました。このうちアジアからの旅行客が70％以上を占めています。訪日旅行客の増加に対しては、こうした旅行客が病原体を持ち込まないよう、消毒マットによる旅行者の靴底消毒、検疫探知犬の活用、職員による入国者への口頭質問の実施を始め、航空会社等への広報活動として、機内アナウンス、出国時チェックインカウンターでの広報など事前対応型広報にも取り組んでいます。今後とも緊張感を持って取り組んで参ります。

動物検疫所は、輸出入動物・畜産物など人の財産を、家畜伝染病予防法の下で検査する検査指導機関であり、このため、既にいくつかの検査においてISO認証を得ていますが、引き続き検疫部管理指導課を中心に内部及び外部の精度管理を推進し、検査・診断の信頼性の確保・向上に努めます。また、動物衛生課と連携し海外における動物疾病発生情報の収集に力を入れるとともに、輸入者等から生産地等の情報を入手し検疫対応に適切に反映させること、検疫情報の共有など仕向先都道府県と連携することなどにも取り組んで参ります。検疫業務については、リスク評価に基づき、国別品目別に検査の重点化、簡素化を図り、科学的根拠に基づいた業務の効率化を図りたいと思います。生きた動物については、輸出国との事前調整や検疫対応の見直しを通じた安定的な輸入に務めます。

さらに、鳥インフルエンザ発生時など大規模な防疫対応時には防疫資材供給、人的支援でも動物検疫所に求められる役割を引き続き果たして参ります。

こうした役割を担う技術者集団である動物検疫所の職員について、人材育成を進め、世界的な視野を持って日々の研鑽を積み重ねたいと思います。

政府は、農林水産物の輸出を促進するため、農林水産業輸出強化戦略を策定し、平成31年までに1兆円の目標を掲げ、関係機関による一体的な取組を展開しています。輸出解禁手続については動物衛生課を支援するとともに、輸出条件の確認、輸出検査、輸出証明書の発行など輸出検査業務も増加しています。円滑な検査手続の実施に努めます。

東京オリンピック・パラリンピックの開催がいよいよ迫ってきました。来年にはプレ大会も計画されています。特に、馬術競技の開催に当たり、農林水産省消費・安全局動物衛生課、組織委員会、東京都等関係者とも連携して、万全の準備をしたいと考えています。

動物検疫所は職員の女性比率が50％を超え、農林水産省の中でも女性比率の高い職場になっています。その能力が十分に発揮できるようワークライフバランスに配慮した女性の働きやすい職場環境作りに務めます。

今後とも、畜水産業の振興・公衆衛生の確保といった組織の目的を果たすため、所内ではもちろんのこと関係者、都道府県の方々と、それぞれのレベルで、これまで以上に広くコミュニケーションを図り、農林水産省本省、関係機関とも連携し、職責を果たしていきたいと考えていますので、皆様の御理解と御協力をお願いします。

◎動物検疫所長　退任挨拶

小倉　弘明

４月１日付けで国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）動物衛生研究部門の部門長を拝命しました。平成26年４月に動物検疫所長に就任して以来４年間、職員、関係者の方々には、業務推進に尽力、ご協力を頂き感謝申し上げます。

動物検疫所は、設立以来、水際の防疫と国内での防疫支援の二つの役割を担っています。他に代わるものがいない水際防疫については、その確実な実施が国内の畜産生産基盤や公衆衛生の維持、強化だけなく、畜産業の将来をかけた畜産物の輸出の大前提になっています。この４年間、旅客分野では、訪日外国人増加を受け、年度中途の緊急対応も含めた大幅な増員、広報の強化、探知犬の増頭と機動的な活用、質問業務の合理化、科学的検証に基づく車両消毒の合理化などを行ってきました。畜産物の検疫では、関係者の方々の意見も聴きながら、加熱処理肉の現物検査を抜き打ちとする一方で加熱状況のモニタリングを行うなどの合理化を進めるとともに、国際基準も踏まえた乳製品の検疫も開始し、リスクに応じた検査対応を実施しています。動物の検疫では、牛のヨーネ病や馬ピロプラズマ病などの多頭数での摘発があり、衛生条件をベースにしながら、輸出国の情報を集め、選畜や輸出前の自主検査の助言、輸入検疫時の柔軟な検査対応、解放時の仕向先都道府県との情報交換など関係者と連携した取り組みを進めてきました。このほかにも、狂犬病予防法、感染症法、水産資源保護法の関連業務も制度の拡充への対応、検査分担の見直しなどを行いながら対応してきており、これらの検疫業務全体は、関連情報の分析やこれまで関係機関の協力も得て時間をかけて整備され、品質も確保された検査体制が支えています。

一方、国内の防疫支援の分野では、繰り返し発生した高病原性鳥インフルエンザ対応に所属する家畜防疫官を派遣し、発生農場での防疫活動を支援するとともに、備蓄する防疫資材の貸出しを行ってきました。また、都道府県等からの検査の受託については、近年、実績が乏しい状況が続いていますが、検疫で監視伝染病99疾病の最終診断を行う立場にある国の検査機関として、順次その体制を整備し、この春には受託規定も策定してその役割を果たそうとしています。国内の防疫を担う都道府県との関係については、防疫支援での評価や連絡会議の開催、各所での人的な交流もあって、連携が強まりつつあります。

このような取組を進める中、この４年間、国内では、輸入された動物、畜産物などに起因したような家畜衛生上、公衆衛生上の問題は起きていません。検疫業務そのものも、着任前から既に取り組まれていたリスクメネジメントの取組や検査室の信頼性確保の取組、関係者とのコミュニケーション作りもあって、大きなトラブルもなく進められており、結果として動物検疫所の役割をしっかり果たしてきています。

動物検疫所は、30年度も大幅に増員され、10月には定員513名の組織になります。北海道・東北支所も昨年新設され、静岡出張所、四国出張所も再編されました。我が国周辺では、重要疾病が常在的に発生し、海外との人や物の行き来は益々増加、多様化しています。動物検疫所が、今後とも関係者としっかり連携しながら、国内外の情報を収集し、リスクを評価し、的確な対応ができる機能的な検査機関としてその役割を果たして行くことを願っています。

４月から農研機構動物衛生研究部門に勤めます。動物衛生研究部門は、獣疫調査所、家畜衛生試験場、動物衛生研究所と名称を改めながら、唯一の国レベルの家畜衛生の専門研究機関として、100年を超える歴史を持ち、永年我が国の家畜衛生を技術面で支えてきています。行政、検査指導機関出身者として、研究環境の整備に加え、研究と動物検疫所も含めた行政との連携に努めていきたいと思います。

動物検疫所長在任中は、皆さんに様々な出来事、案件に真摯に対応頂き、私自身いつも前向きな気持ちで仕事をすることができました。これからも、家畜衛生組織の一員として、同じ気持ちで家畜衛生の向上に尽力していきたいと考えています。引き続き、お付き合いのほどよろしくお願いいたします。

◎トピックス

・平成 29 年度業績発表会について

（精密検査部危険度分析課）

平成30年1月25 ～ 26日に本所大会議室で業績発表会を開催しました。当会議は、検疫業務に係る検査技術の向上・改善、円滑な業務遂行に資するべく、検疫業務に関する成果報告と討議を行う場として、毎年１月に開催されています。第一部（検査業務の改善や現状についての発表）では18題、第二部（検疫対応事例や検査診断に関する調査研究等についての発表）では22題（うちポスター発表2 題）に加え、特別演題（国際会議や海外の検査機関への出張報告）４題

が発表されました。

１日目には、農業・食品産業技術研究機構動物衛生研究部門の坂本研一部門長に「海外における口蹄疫とアフリカ豚コレラ等の発生状況と国内侵入リスク」と題して特別講演をしていただき、2日目には動物医薬品検査所、農業・食品産業技術研究機構動物衛生研究部門から助言者をお招きし、専門的な見地からの助言及び審査をしていただきました。本年度は初の試みとして、省内ウェブ会議システムを利用し、全国の各支所の事務所に会場の音声とスライド画像を同時配信し、全国に約400名配置されている家畜防疫官が、業務の合間に発表と討論内容等を聴講できる場を設けました。

審査の結果、表のとおり各部の優秀演題と平成30年に開催される第59回全国家畜保健衛生業績発表会で発表する演題が選出されました。

優秀演題

第一部優秀演題	関西空港支所における他機関と連携した広報活動	関西空港支所検疫第1課
	輸入者等の協力のもとに製造された中国産加熱処理鶏肉のSDS-PAGEについて	検疫部畜産物検疫課
第二部優秀演題	輸入豚におけるMRSA保有状況調査	精密検査部微生物検査課
	携帯品として持ち込まれた未加熱家きん肉等から分離された鳥インフルエンザウイルスの性状解析（平成28-29年度）	精密検査部海外病検査課
全国業発で発表予定の演題（＊）	豪州産牛におけるヨーネ病摘発事例とその対応	門司支所検疫第２課
	豪州産牛から分離されたヨーネ菌のVNTR 型別及び陽性個体の病変分布	
	携帯品として持ち込まれた未加熱家きん肉等から分離された鳥インフルエンザウイルスの性状解析（平成28-29年度）	精密検査部海外病検査課
	鳥インフルエンザウイルス（H9N2 亜型）の初生ひなへの感染試験	

（＊）各課の演題を1つにまとめて発表予定

発表では各所で発生した事例に真摯に対応するとともに、昨年11月から開始した乳製品の検査に加え、年々拡大してきている検疫業務を円滑化・効率化していく必要性に迫られる中で、検疫対象である物品の持込みリスクを考慮し、それを踏まえた検疫対応を各所が工夫していることが感じとれました。

・平成 29 年度支所長会議（第２回）の概要について

（企画管理部企画調整課）

本年２月７日及び８日、横浜本所において平成29年度動物検疫所支所長会議（第２回）が開催されました。

第１日目は、会議の冒頭、小倉所長から訪日外国人の増加、乳用繁殖牛の輸入頭数の増加、乳製品の検疫が開始されたが、水際検疫では特段大きな問題は起きていない。また、我が国で

の高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の発生に際しては、国内防疫支援として家畜防疫官の派遣や防疫資材の貸付など適切な対応が図られた。本日の会議では熊谷動物衛生課長、小原動物医薬品検査所長、坂本農研機構動物衛生研究部門長をお迎えし、お話しできる貴重な機会であり、意見交換、情報交換を踏まえ、今後の水際防疫の方向性を示していきたいとの挨拶がありました。

議事次第に従い、熊谷課長からは、四国で初めて発生したHPAIに関して、動物検疫所の迅速な人及び物の支援について謝意が示されるとともに、動物検疫に関する最近の動向等について説明がありました。

続いて小原所長、坂本部門長から、それぞれ挨拶と業務概要の説明をいただき、動物検疫所本所各部及び各支所から業務概要の説明がありました。

動物検疫業務に関する意見交換では、「平成30年度予算」、「畜産物の輸入検査の合理化」、「その他（防疫資材等の整備状況等、動物検疫所受託検査規程等）」についての説明と活発な意見交換が行われ、情報共有が図られました。

会議の最後には、熊谷動物衛生課長から、本日の会議では検疫業務の課題について前向きな議論がなされており、本省で改善できるものは改善していくのでよろしくお願いしたいとの挨拶で初日の会議は終了しました。

２日目の会議は、各支所長から各支所の諸課題及び要望事項について説明の後、検討事項として、企画管理部から「平成31年度予算・組織定員の要求方針」、「家畜衛生条件の見直し体制」、「人材育成」、「輸出精密検査の外部化」等について、また、統括検疫管理官から「係留施設の施設再編・整備」を説明し、前日に続き活発な意見交換が行われました。

その後、昼食を挟んで、個別事項として平成30年４月期の人事に関する討議を行い、２日間にわたる会議を終了しました。

◎動物検疫関連情報
・北海道宗谷地方における外国人技能実習生への動物検疫説明会について

（北海道・東北支所）

平成29年12月15日、北海道宗谷地方（浜頓別町及び枝幸町）の二つの会場において、宗谷国際人材交流協同組合の御協力により、外国人技能実習生に対する動物検疫説明会を開催したので、その概要を報告します。

宗谷地方の主な産業である漁業において、サケの栽培漁業やホタテの養殖技術、水産物加工製造技術などを学ぶために、アジア諸国から外国人実習生を受け入れています。実習期間は３年間で、その出身国別の割合は、およそ中国70%、ベトナム25%、タイ5%となっています。今回、開催した会場は全て中国人実習生であり、浜頓別会場に55名、枝幸会場に60名が参加しました。説明会の開催日が休日であったため、着飾った方やまさに実習先の加工工場から駆けつけた方もおり、会場に入りきれないほどの実習生が集まりました。

説明会には中国語で作成したスライドを用意し、参加型のクイズ形式で実施しました。○×方式や、選択式での質問も行ったことで、参加者同士で「クッキーは持ち込めるよね。」、「肉マンはどうだろう。」、「生肉は絶対ダメでしょう？」など議論し合い、とても賑やかで笑いの絶えない説明会となりました。参加者が興味を持って集中して聞き入っており、説明者から質問するなど工夫した結果、大部分の参加者が肉製品の持ち込みができないことを理解できた様子でした。また、動植物検疫探知犬を知っているかとの質問には、７割近くの参加者が知って

いると回答しており、国際空港での動植物検疫探知犬を使った啓発活動が非常に効果を発揮していると感じました。今回の説明会は北海道警察と連携して実施し、前半が動物検疫についての説明、後半が道警職員による日常生活の安全に関する説明でした。道警からの説明の中に、北海道内各空港には警察官が駐在していること、動物検疫で肉製品が持ち込めないことに感情

的になり暴行を働けば、公務執行妨害も加わり、刑罰が格段に厳しくなることなどを丁寧に説明いただきました。日頃空港業務で訪日外国人旅行者と接している動物検疫所職員として非常にありがたい説明でした。

今回参加した実習生は20歳前後から40歳過ぎの方など年齢構成は様々でしたが、全ての参加者が中国の農村部出身者で、実家で家畜を飼育している方も３割ほどいました。採卵用のニワトリを自家用に飼育している方の割合が高めでしたが、中には豚を飼育している方もいました。多くの実習生は、12月下旬から２月中旬の期間、春節を故郷で過ごすために中国に一時帰国しますが、春節が過ぎればまた、日本へ戻ってきます。実習生が春節で帰国する前に動物検疫の説明会を開催できたことは、事前に肉製品を持ち込めないと理解いただけるため、非常に効果的だと感じました。

最後に、中国に限らずベトナムやタイなど多くの外国人実習生に対し直接、動物検疫について説明することは非常に重要であり、今回のように警察署と連携した説明会や、北海道庁など地方自治体との合同説明会なども今後検討していきたいと思います。

・羊腸消毒所の歴史

（検疫部畜産物検疫課）

昨年12月15日付けをもって、羊腸消毒所が閉所となりました。50年以上続いた輸入天然ケーシング（以下「羊腸等」）消毒の歴史に幕が閉じられた訳ですが、その背景としては、昨年２月に羊腸等の98％を占める中国、また、同10月にはモンゴル等家畜伝染病予防法施行規則第43条の表の地域に含まれる９か国との間で、OIEコードに基づくいわゆる「塩蔵30日措置」が盛り込まれた新たな家畜衛生条件が締結され、口蹄疫等の汚染リスクが低減された結果、日本到着時の現物消毒が不要とされたこと等があげられます。

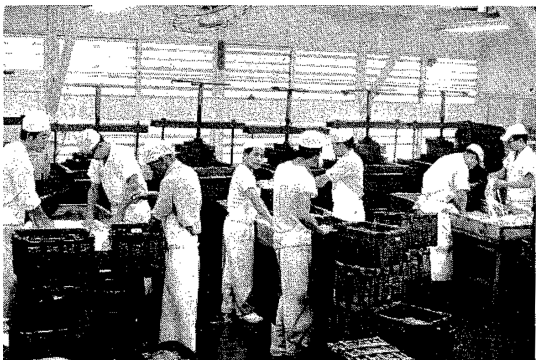
羊腸をはじめ豚腸、牛腸がいつの頃から日本で使い始められたか定かではありませんが、欧州等では紀元前1500年頃に使用されていたとのことです。日本ではおそらく昭和初期に食肉加工用の資材として中国天津等から輸入されたのが始まりではないかと言われています。第２次世界大戦後においては中国のほかインド、パキスタンの３か国から主に輸入されていましたが、これらの国々では口蹄疫等の家畜の悪性伝染病が発生しており、また、輸入量の増加に伴い品質、規格等の粗悪品が多く混入されはじめたこと等から、昭和38年２月に羊腸輸入協議会が設立され、同年11月に日本羊腸輸入組合（羊腸組合）が結成されました。この頃、家畜伝染病予防法に基づき輸入羊腸等の消毒が強化され、翌年の昭和39年５月に動物検疫所長通知として発出された「ケーシングの輸入検疫要領」に基づき、同年６月16日にパキスタン産羊腸を手始めに消毒業務がスタートしました。当初は、消毒については動物検疫所が、品質規格検査等については羊腸組合がそれぞれ担当して実施していましたが、その後、家畜防疫官指示の下で消毒業務も羊腸消毒所において実施されることとなりました。

動物検疫所本所内に羊腸消毒所（横浜検査所）が建設されたのは、翌年の昭和40年４月となります。以降、羊腸等の輸入量の急増に伴い、消毒検査体制の整備・強化が叫ばれる中、昭和45年に大黒町検査所（横浜市鶴見区）、昭和52年に

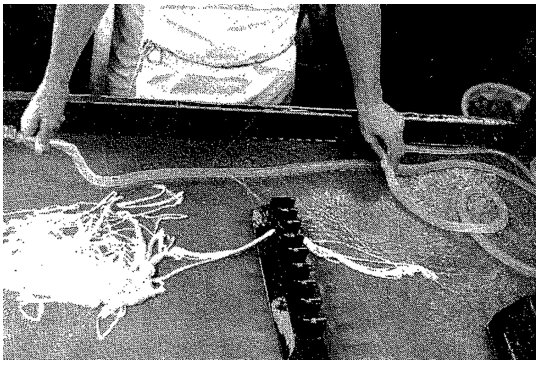
万国橋検査所（横浜市中区）の臨時的な開設・移転等を経て、昭和53年５月に成田検査所（成田空港内）、平成７年４月に新山下検査所（横浜市中区；平成16年に同区内移転）がそれぞれ開所され、以後、横浜検査所と併せて３か所において消毒業務が行われてきました。

半世紀以上の間、大きな問題等がなく、的確かつ円滑な消毒業務が実施できたことは、組合員、組合関係者をはじめ、何よりも羊腸消毒所で従事された職員の皆様方から、動物検疫に対する御理解と御協力をいただけたからこそと考えます。輸入羊腸等の消毒業務に携わっていただいた多くの皆様に、この場を借りまして厚く感謝を申し上げます。

開所当時の消毒風景（開樽及び消毒）



品質、規格等の検査



◎所内情報

・所内研修履歴（１月～３月）

（企画管理部調査課）

【平成29年度家畜防疫官（技術２）研修】
期間：平成30年２月13日～16日
場所：横浜本所
人数：８名
内容：精密検査に必要な知識・技術（実技含む）の付与及び畜産物検査に関する最新の知識の習得

【平成29年度家畜防疫官（行政２）研修】
期間：平成30年２月19日～20日
場所：横浜本所
人数：９名
内容：家畜衛生をめぐる情勢、動物検疫所の現状と今後、総務的事項に関する知識の付与、人材育成・指導に関する知識の付与、課題討論、発表等

【平成29年度新規採用者集合研修（後期）第２回】
期間：平成30年３月７日～３月９日
場所：横浜本所
人数：９名（消費・安全局畜水産安全管理課１名含む。）
内容：水産動物に対する検疫対応、家畜衛生条件、リスク評価に基づいた検疫対応、検査の信頼性確保、感染症予防法に関する知識の付与、近年の家畜衛生行政の動き、検疫業務に係る報告（プレゼンテーション）

・１年間を振り返って

（平成29年度採用者）

○畑山　佳祐（総務部庶務課）

私は動物検疫所に採用されてからこの１年間、人事第１係として主に給与の計算や人件費の積算、係長が行う採用事務の補助などの仕事を行ってきました。分からないことばかりでこの１年間は失敗の連続でしたが、上司や先輩に支えられ、充実した１年を過ごすことができたと思います。まだまだ至らない部分もたくさんあ

りますが、いつまでも初心を忘れず、動物検疫所職員の一員として尽力して参りたいと思いますので、これからもどうぞよろしくお願い致します。

○宇澤　裕樹（検疫部動物検疫課）

所属の動物検疫課では様々な動物の輸入検疫を経験し、採材・検査技術に加え、動物の正常な状態や各疾病、関連法規など幅広い知識が必要だと感じました。また、動物検疫課の皆様には熱心に御指導いただくとともに、家族の末っ子のように愛情を注いでいただき楽しく充実した日々を送ることができました。

１月には、香川県での鳥インフルエンザの防疫対応に参加しました。この貴重な経験を私からも共有していこうと思います。

半年間、多くの方々にお世話になり深く感謝しております。今後とも御指導御鞭撻の程よろしくお願いいたします。

○漆崎　祥平（検疫部畜産物検疫課）

畜産物検疫課では横浜港に到着する船舶貨物の輸出入検査を主に行っており、10月から半年の研修期間中は様々な種類の畜産物の検査を経験しました。貨物の種類は食肉や稲わら等、また11月からは乳製品が検査の対象に加わり、それぞれの貨物について基本的な知識から、家畜の伝染性疾病を広げるリスク等多岐にわたる情報を基に行う畜産物の検疫業務は、幅広い知識と法律への深い理解が必要であると感じました。また、動物検疫について相手に理解しやすく正確な説明ができるよう、畜産物検疫課の皆様には多くの御指導をいただきました。これらの経験を生かしながら、今後もさらに勉強することを止めず業務に励んでいきたいと思います。

最後になりましたが、お世話になった畜産物検疫課の皆様、各研修で御指導くださった方々にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。

○摂待　順也（川崎出張所）

H29年４月に農林水産省に採用となり、９月までの半年間は消費・安全局動物衛生課で、10月からは動物検疫所川崎出張所で、それぞれ業務に携わりました。各所での業務を通じて、家畜防疫という意味では疾病発生時の対応だけでなく、いかにして疾病の発生を防ぐかという観点が重要なのだと強く感じました。この１年間で本省と動物検疫所の両方の業務を経験できたことは、今後家畜防疫官として業務を行っていく上で大きな糧になると思います。最後になりますが、動物衛生課や川崎出張所の皆様をはじめとして、この一年間暖かく御指導いただきました皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。

○友國　祐希（企画管理部企画調整課）

昨年４月に農林水産省に入省して以降、10月までは動物衛生課国際衛生対策室査察調整班に配属となり、主に輸出解禁に向けた現地調査受入れ業務の補佐をさせていただきました。特に輸出解禁に向けた現地調査受入れにおいては、輸出が解禁になることにやりがいを感じると同時に、解禁に至る道のりの険しさを肌で感じました。10月からは動物検疫所企画管理部企画調整課に配属になり、動物の輸出入に係る通知の処理や輸出解禁に向けた現地調査受入れ等を経験させていただきました。企画調整課の半年間で教えていただいたことを今後の家畜防疫官人生に活かして行きたいと思います。

○武仲　萌子（羽田空港支所検疫課）

この１年間携帯品として輸出入される犬猫や畜産物検査を経験し、様々な事例に触れることができました。初めてのことばかりで戸惑うことも多々ありましたが、動物検疫の大切さを学びました。大学時代に宮崎県での口蹄疫に衝撃を受けたことから、伝染性疾病の侵入を水際で防ぎたいという思いで入省しました。水際防疫を担う動物検疫所の一員となり、やりがいを感じています。今後も初心を忘れず、一日も早く一人前の家畜防疫官になれるよう、これからも努力していきたいと思います。

○遠山　錬（羽田空港支所検疫課）

１年間の研修を通して、犬猫・うさぎの輸出入検査、携帯品の畜産物検査、係留動物の臨床観察、検査室業務等多くのことを学びました。空港では動物検疫制度を知らない方からの問合せが多く、分かりやく説明するのにとても苦労

しましたが、周りの方にアドバイスをいただき徐々に慣れていきました。

４月には家畜防疫官となりますが、初心を忘れず、謙虚な姿勢で日々の業務に取り組んで参ります。

○岡本　幸久（中部空港支所検疫課）

4月から中部空港支所に配属になり、犬、猫、うさぎ、金魚、畜産物等の輸出入検査に先輩方の指導の下、携わらせていただきました。また、他所での研修では名古屋出張所で船舶での畜産物の輸出入について、新門司検疫場では動物の輸入検査について学ばせていただきました。どの業務も法律に基づき公正に職務を遂行することを教わりました。

1年間業務に当たり多くの関係者の方と接する中で、動物検疫という仕事の責任の重さを実感しました。宮崎県の口蹄疫のようなことを二度と起こしたくないという当初の思いを忘れず、これからも精一杯取り組んで行く所存です。今後とも御指導お願いします。

○吉田　竜太（中部空港支所検疫課）

中部空港支所に配属されてから約1年の間に様々な経験をしました。特に印象に残っているのが業績発表会です。発表のために数か月前から準備に取りかかり、先輩や上司の指導の下、幾度となく原稿を練り直し、とても勉強になりました。また、他所での職員の取組発表を聞き、常に問題意識を持ち、考えながら業務に当たっていると感じました。考えて行動するということを常に忘れず、今後の業務に取り組んでいきたいです。

○尾前　優樹（関西空港支所検疫第１課）

4月より、関西空港支所検疫第1課に配属され、空港業務について多くの経験をさせていただきました。業務を通して痛感させられたのは、私自身に足りない部分が多いことです。業務に関する知識はもちろんのこと、接客対応マナー等、自分が身に付けなければならない点があらわになった1年間でした。

このため、今後は自分自身の足りない部分を補っていけるよう努力を怠らず、どこに出ても恥ずかしくない家畜防疫官を目指し、精進していきたいと思います。

○根知戸　朗覧（関西空港支所検疫第１課）

昨年３月に大学を卒業し、念願の動物検疫所に入所しました。初めての社会人生活を関西空港支所で過ごし、自分の無知さ･未熟さから色々な人に迷惑を掛けてしまいましたが、職場の親切な先輩方に支えられ、この1年間で大きく成長できたと実感しています。関西空港はアジアを中心に様々な国からの旅行客が利用し、動物検疫の対応を通じて毎日学ぶべきことがたくさんありますが、これからより一層の努力と精進を重ね、家畜防疫官としての自覚を持って業務に臨んでいきたいと考えています。

○満尾　彩可（関西空港支所検疫第１課）

4月より関西空港支所で主に犬猫の輸出入検査及び携帯品検査を行っています。また、半年間の研修期間中、海港業務、係留検査業務等様々な業務を経験する中で、家畜防疫官の業務は多岐に渡り、その一つ一つが法律や制度等に基づいていることを実感しました。

空港では動物検疫をご存じでない方に説明する機会が多く、私自身がその根拠を十分に理解していなければ、相手に分かりやすく説明することができないと感じています。

家畜防疫官として自信を持って業務に臨めるよう今後も必要な知識、技術の習得に努めて参ります。

○谷川　光（神戸支所検疫課）

神戸支所に配属され、１年間で畜産物業務だけでなく、動物の係留施設や犬猫対応、客船対応、指定場所の現地調査等を経験することができました。毎日、多種多様な問合せや申請があり、自分の知識不足や対応能力の無さを痛感しております。

臨機応変に対応することができる家畜防疫官になれるよう、今後も動物検疫業務の勉強を惜しまず努力していきたいと思います。１年間で神戸支所の方々や各研修先でお世話になった方々に感謝しております。今後もまだまだ学ぶことが多くあると思いますが、御指導のほどよ

ろしくお願いいたします。

○今野　由梨（門司支所検疫第１課）

去年４月に配属された門司支所では、肉等の他に、魚粉や稲わら等の輸入検査も行っており、動物検疫業務の幅広さに驚きました。また、携帯品検査では旅客への説明、特にお土産などの肉製品を日本に持ち込めないことを御理解いただく難しさを感じています。さらに、広報活動を行う中で動物検疫について知らない人が多いことも分かり、広報活動の重要性を実感しています。

この１年間、早く現場の戦力になりたいと思い、先輩方に疑問点について質問しながら学んできました。今後は学んだことを活かして、日々の業務に取り組んでいきたいと思います。

・人事異動

（平成30年１月２日～４月１日）

（平成30年２月１日）

永友　孝昌　検疫部畜産物検疫課主任検疫官（羽田空港支所検疫課主任検疫官）
藤澤　景子　羽田空港支所検疫課主任検疫官（検疫部畜産物検疫課主任検疫官兼羽田空港支所検疫課付）
梶原　篤　育児休業（成田支所貨物検査課主任検疫官）
永友恵美奈　川崎出張所（検疫部畜産物検疫課）
田中　吉春　羽田空港支所検疫課（任期付採用）

（平成30年２月13日）

西村英里奈　任期満了（成田支所旅具検疫第１課（臨時的任用））

（平成30年２月14日）

渡辺　有美　育児休業（成田支所旅具検疫第１課）
西村英里奈　成田支所旅具検疫第１課（臨時的任用）

（平成30年２月28日）

池上　智美　退職（神戸支所庶務課）
福本奈津子　検疫部動物検疫課付（独立行政法人家畜改良センター改良技術専門役（十勝牧場担当））
福本奈津子　退職（検疫部動物検疫課付）
守田留美子　任期満了（検疫部畜産物検疫課（臨時的任用））

（平成30年３月１日）

梶原　篤　職務復帰（成田支所貨物検査課主任検疫官）
山口　菜美　関西空港支所検疫第１課主任検疫官（消費・安全局畜水産安全管理課飼料安全専門官兼消費・安全局動物衛生課付）
守田留美子　検疫部畜産物検疫課（任期付採用）
川井航太郎　消費・安全局動物衛生課検疫業務班検疫調整係長（神戸支所検疫課）

（平成30年３月16日）

塩見美恵子　育児休業（検疫部畜産物検疫課）

（平成30年３月27日）

小川　美緒　退職（門司支所福岡空港出張所（任期付採用））

（平成30年３月31日）

向井　清孝　定年退職（成田支所長）
櫻田　眞一　定年退職（成田支所庶務課長）
堤　啓介　退職（門司支所検疫第１課長）
野間　久栄　総務部庶務課付（独立行政法人家畜改良センター鳥取牧場総務課庶務係長）
野間　久栄　退職（総務部庶務課付）
中谷　大地　退職（成田支所旅具検疫第２課）
小倉　弘明　退職（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門長へ（動物検疫所長））
我妻　良則　退職（独立行政法人家畜改良センター総務部管財課長へ（中部空港支所庶務課長））
日比　浩之　退職（北海道十勝家畜保健衛生所予防課専門員へ（精密検査部微生物検査課））

村藤　義訓　退職（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門ウイルス・疫学研究領域疫学ユニットへ（成田支所貨物検査課兼成田支所旅具検疫第２課））
鈴木　　瞳　退職（愛知県東部家畜保健衛生所保健衛生課技師へ（中部空港支所検疫課））
浅野　将人　退職（独立行政法人家畜改良センター新冠牧場調査役へ（門司支所鹿児島空港出張所））
松永　繭子　退職（神奈川県県央家畜保健衛生所防疫課技師へ（門司支所鹿児島空港出張所））
中原　祐輔　退職（神奈川県畜産技術センターへ（検疫部動物検疫課））
島本　真理　退職（愛知県中央家畜保健衛生所豊田加茂支所へ（中部空港支所検疫課））
小川　富生　任期満了（羽田空港支所東京出張所（再任用））
辻野　祐介　任期満了（検疫部畜産物検疫課（臨時的任用））
守田留美子　任期満了（検疫部畜産物検疫課（任期付採用））
山谷　由香　任期満了（検疫部畜産物検疫課（任期付採用））
石渡　祥子　任期満了（精密検査部微生物検査課（任期付採用））
清水　紗弥　任期満了（川崎出張所（臨時的任用））
日比野　恵　任期満了（川崎出張所（臨時的任用））
中山　　航　任期満了（北海道・東北支所検疫課（臨時的任用））
正路　　優　任期満了（成田支所旅具検疫第１課（任期付採用））
西村英里奈　任期満了（成田支所旅具検疫第１課（臨時的任用））
増岡　　絢　任期満了（成田支所旅具検疫第２課（臨時的任用））
武渕　紀里　任期満了（成田支所旅具検疫第２課（任期付採用））
平山　千砂　任期満了（成田支所旅具検疫第２課（臨時的任用））
西銘　浩平　任期満了（成田支所貨物検査課（臨時的任用））
河津　孔徳　任期満了（中部空港支所検疫課（臨時的任用））
竹内　椋子　任期満了（関西空港支所検疫第１課（臨時的任用））
奈良　幸廣　任期満了（神戸支所検疫課（臨時的任用））
吉岡　　隆　任期満了（神戸支所検疫課（臨時的任用））
吉田　艶枝　任期満了（神戸支所広島空港出張所（臨時的任用））
中村　仁美　任期満了（門司支所検疫第１課（臨時的任用））
出来総一郎　任期満了（門司支所鹿児島空港出張所（臨時的任用））
照屋　夏月　任期満了（沖縄支所那覇空港出張所（臨時的任用））

（平成30年４月１日）
伊藤　和夫　動物検疫所長（消費・安全局動物衛生課国際衛生対策室長）
角田　隆則　北海道・東北支所長（羽田空港支所次長）
田中　寿一　成田支所長（羽田空港支所長）
大塚　誠也　羽田空港支所長（中部空港支所長）
田中　公子　中部空港支所長（神戸支所長）
吉田　和弘　神戸支所長（北海道･東北支所長）
小岩井正博　羽田空港支所次長（門司支所次長）
林　　政益　門司支所次長（消費・安全局動物衛生課課長補佐（輸入検疫企画班担当）
矢野　隆司　統括検疫管理官（検疫部管理指導課長）
櫻井　健二　感染症対策専門官（大臣官房国際部国際政策課課長補佐（情報企画班担当兼大臣官房国際部国際経済課付））
金澤　　浩　総務部庶務課長（生産局総務課課長補佐（機構班担当））
相田　善勝　検疫部管理指導課長（消費・安全局畜水産安全管理課付）

髙橋　雅志　成田支所調整指導官（沖縄支所調整指導官）
川村　　敏　成田支所庶務課長（生産局畜産部競馬監督課競馬監督官）
平賀　英子　成田支所旅具検疫第２課長（中部空港支所検疫課長）
石井　正洋　羽田空港支所庶務課長（総務部庶務課課長補佐）
渡邉　康之　中部空港支所庶務課長（羽田空港支所庶務課長）
鳥山眞由美　中部空港支所検疫課長（中部空港支所名古屋出張所長）
古田　敦久　中部空港支所名古屋出張所長（神戸支所調整指導官）
勢古貴九秀　神戸支所調整指導官（神戸支所大阪出張所長）
貞末　竜伺　神戸支所大阪出張所長（羽田空港支所東京出張所主任検疫官）
黒木　昭二　門司支所統括検疫管理官（門司支所長崎空港出張所長）
酒井　輝明　門司支所検疫第１課長（門司支所博多出張所主任検疫官）
金田　幸樹　門司支所長崎空港出張所長（沖縄支所那覇空港出張所主任検疫官）
新堀　　均　沖縄支所調整指導官（成田支所旅具検疫第２課長）
関口　直美　総務部庶務課課長補佐（生産局畜産部牛乳乳製品課総務班庶務係長）
玉置　　敦　総務部会計課課長補佐（生産局総務課会計班予算第１係長）
細野　靖人　企画管理部企画調整課主任検疫官（成田支所旅具検疫第２課主任検疫官）
東　　樹理　企画管理部危機管理課主任検疫官兼羽田空港支所検疫課付（企画管理部危機管理課主任検疫官）
吉田　英二　検疫部動物検疫課主任検疫官（企画管理部企画調整課主任検疫官）
竹川　正興　精密検査部微生物検査課主任検疫官兼企画管理部企画調整課付（独立行政法人家畜改良センター新冠牧場改良技術専門役）
新居　朋昭　精密検査部病理・理化学検査課主任検疫官兼精密検査部危険度分析課付（成田支所旅具検疫第２課主任検疫官）
立和名剛司　静岡出張所主任検疫官（精密検査部病理・理化学検査課主任検疫官兼精密検査部危険度分析課付）
岩﨑　俊輔　北海道・東北支所検疫課主任検疫官（胆振分室）（消費・安全局畜水産安全管理課獣医事班獣医事監視指導係長）
立野　三穂　北海道・東北支所検疫課主任検疫官（神戸支所大阪出張所）
福田　雅史　成田支所旅具検疫第１課主任検疫官（羽田空港支所検疫課主任検疫官）
椛本　綾子　成田支所旅具検疫第２課主任検疫官（精密検査部微生物検査課主任検疫官兼企画管理部企画調整課）
鈴木　秀人　成田支所旅具検疫第２課主任検疫官（検疫部動物検疫課主任検疫官）
黒田　正爾　成田支所貨物検査課主任検疫官（北海道・東北支所検疫課主任検疫官（胆振分室））
相田　美穂　成田支所旅具検疫第３課主任検疫官（羽田空港支所検疫課主任検疫官）
間　　夏彦　羽田空港支所検疫課主任検疫官（羽田空港支所東京出張所主任検疫官兼羽田空港支所検疫課付）
白石　美穂　羽田空港支所検疫課主任検疫官（成田支所旅具検疫第３課主任検疫官）
河田　　誠　羽田空港支所東京出張所主任検疫官（中部空港支所検疫課主任検疫官）
久保　祐里　羽田空港支所東京出張所主任検疫官（成田支所貨物検査課主任検疫官）
杉浦　千尋　中部空港支所検疫課主任検疫官（門司支所検疫第１課主任検疫官）
平井明希子　中部空港支所検疫課主任検疫官（消費・安全局動物衛生課防疫企画班予察監視係長）

橋本　行彦　中部空港支所名古屋出張所主任検疫官（東海農政局消費・安全部安全管理課畜水産安全係長）
小川　成美　中部空港支所小松出張所主任検疫官（中部空港支所検疫課主任検疫官）
濱名　　仁　関西空港支所検疫第１課主任検疫官（神戸支所大阪出張所主任検疫官）
住川　栄太　関西空港支所検疫第１課主任検疫官（神戸支所検疫課主任検疫官）
富安　明子　神戸支所検疫課主任検疫官（門司支所検疫第２課主任検疫官）
前田　雅史　神戸支所大阪出張所主任検疫官（中部空港支所名古屋出張所主任検疫官）
藤岡　友人　門司支所検疫第１課主任検疫官（中部空港支所検疫課）
住吉　理穂　門司支所検疫第２課主任検疫官（精密検査部海外病検査課（中部検査・診断センター駐在））
桐原　志保　門司支所博多出張所主任検疫官（門司支所検疫第１課）
川邉　俊生　沖縄支所那覇空港出張所主任検疫官（成田支所旅具検疫第２課）
渡辺　　誠　総務部庶務課庶務係長兼総務部会計課付（独立行政法人農林水産消費安全技術センター横浜事務所業務管理課用度係長）
櫻田　眞一　総務部庶務課人事第２係長（再任用）
山本　和弘　企画管理部企画調整課（成田支所旅具検疫第２課）
永野敬太郎　企画管理部調査課（輸出入・港湾関連情報処理センター（株）システム企画部企画第２課）
小財　　恵　検疫部動物検疫課（羽田空港支所東京出張所）
西内　　愛　検疫部畜産物検疫課（羽田空港支所検疫課）
河　紗矢香　精密検査部微生物検査課（門司支所検疫第２課）
原田理恵子　精密検査部海外病検査課（中部検査・診断センター駐在）（中部空港支所検疫課）
小林　芳史　精密検査部病理･理化学検査課（精密検査部病理・理化学検査課兼消費・安全局動物衛生課）
藤澤　　希　精密検査部病理･理化学検査課（門司支所検疫第２課）
三角さつき　川崎出張所（検疫部畜産物検疫課）
木原　博文　新潟空港出張所（成田支所貨物検査課）
吉田　啓記　北海道･東北支所検疫課（北海道･東北支所仙台空港出張所）
竹浪亜沙子　北海道・東北支所検疫課（函館空港分室駐在）（川崎出張所）
加藤　友啓　北海道・東北支所仙台空港出張所（成田支所旅具検疫第１課）
齋藤　匡人　成田支所旅具検疫第１課（神奈川県県央家畜保健衛生所防疫課技師）
清水万里江　成田支所旅具検疫第１課（熊本県中央家畜保健衛生所防疫課主任技師）
堀口　裕生　成田支所動物検疫第１課（愛知県中央家畜保健衛生所保健衛生課技師）
原﨑　多代　羽田空港支所検疫課（門司支所検疫第２課）
小岩　善則　羽田空港支所検疫課（北海道・東北支所検疫課）
佐瀬智香子　羽田空港支所検疫課（沖縄支所那覇空港出張所）
西留ちはる　羽田空港支所東京出張所（生産局畜産部食肉鶏卵課食肉需給班需給係長）
豊饒はるか　羽田空港支所東京出張所（関西空港支所検疫第１課）
木村奈津子　中部空港支所検疫課（神戸支所四国出張所）
佐藤　　芳　中部空港支所名古屋出張所（中部空港支所検疫課）
大屋　哲也　関西空港支所庶務課庶務係長（近畿農政局消費･安全部広域監視官）

藤原　茉依　関西空港支所検疫第１課（神戸支所大阪出張所）
國分啓士郎　神戸支所検疫課（企画管理部調査課）
濱名　史絵　神戸支所大阪出張所（関西空港支所検疫第１課）
岡本　悠介　神戸支所四国出張所（新潟空港出張所）
高柳　　亮　門司支所博多出張所（北海道・東北支所検疫課（函館空港分室駐在））
荒井　陽子　門司支所博多出張所（中部空港支所小松出張所）
林　　史明　門司支所福岡空港出張所（門司支所博多出張所）
主藤　友香　職務復帰（門司支所福岡空港出張所（厳原港事務所駐在））
一山　昌子　門司支所鹿児島空港出張所（門司支所博多出張所）
上野山　慧　門司支所鹿児島空港出張所（成田支所動物検疫第１課）
行田　彩生　沖縄支所那覇空港出張所（成田支所旅具検疫第１課）
北島　裕也　検疫部管理指導課（沖縄支所那覇空港出張所）
石原　深雪　検疫部動物検疫課（神奈川県県央家畜保健衛生所企画指導課技師）
阿部　麻美　北海道・東北支所検疫課（神戸支所岡山空港出張所）
岡本　幸久　北海道・東北支所検疫課（中部空港支所検疫課）
大山口彰朗　成田支所旅具検疫第１課（検疫部動物検疫課兼消費・安全局畜水産安全管理課）
中森　太一　成田支所旅具検疫第２課（検疫部動物検疫課兼消費・安全局動物衛生課）
山口　卓哉　成田支所旅具検疫第２課(北海道・東北支所検疫課)
倉田　愛子　成田支所貨物検査課（検疫部動物検疫課兼消費･安全局動物衛生課）
吉田　竜太　成田支所貨物検査課（中部空港支所検疫課）
菅原　　愛　中部空港支所検疫課(静岡出張所)
摂待　順也　中部空港支所検疫課(川崎出張所)
武仲　萌子　中部空港支所検疫課（羽田空港支所検疫課）
岡田　玲奈　中部空港支所検疫課（愛知県東部家畜保健衛生所技師））
友國　祐希　関西空港支所検疫第１課（企画管理部企画調整課）
加藤　　央　神戸支所大阪出張所（関西空港支所検疫第１課）
大久保周祐　神戸支所岡山空港出張所（関西空港支所検疫第１課）
桑原　麻衣　神戸支所広島空港出張所（門司支所福岡空港出張所）
若尾　英之　門司支所検疫第２課（門司支所福岡空港出張所）
漆崎　祥平　門司支所検疫第２課（検疫部畜産物検疫課）
川﨑ななみ　門司支所検疫第２課（検疫部動物検疫課兼消費･安全局動物衛生課）
山口　　由　門司支所福岡空港出張所（検疫部動物検疫課兼消費・安全局動物衛生課）
郡山　実優　門司支所福岡空港出張所（成田支所旅具検疫第２課）
宇澤　裕樹　門司支所鹿児島空港出張所（検疫部動物検疫課）
長瀬　紘介　沖縄支所那覇空港出張所（成田支所旅具検疫第１課）
長谷川絢奈　企画管理部企画調整課(新規採用)
中島　　渓　検疫部動物検疫課（新規採用）
北川　アミ　検疫部畜産物検疫課（新規採用）
黒坂　紗衣　精密検査部危険度分析課（新規採用）
日野エリカ　川崎出張所（新規採用）
中村美紗都　検疫部動物検疫課兼消費・安全局畜水産安全管理課（新規採用）
杉谷　安黎　検疫部動物検疫課兼消費・安全局動物衛生課（新規採用）
中島　俊輔　検疫部動物検疫課兼消費・安全局動物衛生課（新規採用）
檜森　結羽　検疫部動物検疫課兼消費・安全局動物衛生課（新規採用）
矢守　　凜　検疫部動物検疫課兼消費・安全局動物衛生課（新規採用）

石倉　莉奈　北海道・東北支所検疫課（新規採用）
有原　若奈　成田支所旅具検疫第１課（新規採用）
今野　美沙　成田支所旅具検疫第２課（新規採用）
長谷川啓喜　成田支所旅具検疫第２課（新規採用）
山下　奈々　羽田空港支所検疫課（新規採用）
瀬尾　瑞希　中部空港支所検疫課（新規採用）
冨田　智優　中部空港支所検疫課（新規採用）
米山　竜太　関西空港支所検疫第１課（新規採用）
児玉みつき　関西空港支所検疫第１課（新規採用）
野呂　聡美　神戸支所検疫課（新規採用）
守田留美子　検疫部畜産物検疫課(臨時的任用)
山谷　由香　検疫部畜産物検疫課(臨時的任用)
石渡　祥子　精密検査部微生物検査課（臨時的任用）
日比野　恵　川崎出張所（任期付採用）
中山　　航　北海道・東北支所検疫課（任期付採用）
北爪　　惣　北海道・東北支所検疫課（任期付採用）
正路　　優　成田支所旅具検疫第１課（臨時的任用）
西村英里奈　成田支所旅具検疫第１課（任期付採用）
増岡　　絢　成田支所旅具検疫第２課（任期付採用）
武渕　紀里　成田支所旅具検疫第２課（臨時的任用）
竹内　椋子　関西空港支所検疫第１課（臨時的任用）
吉岡　　隆　神戸支所検疫課（任期付採用）
出来総一郎　門司支所鹿児島空港出張所（任期付採用）
照屋　夏月　沖縄支所那覇空港出張所（任期付採用）
小野寺　聖　独立行政法人農林水産消費安全技術センター札幌センター所長（統括検疫管理官）
小野寺　守　横浜植物防疫所総務部庶務課長（総務部庶務課長）
葛西　桃子　内閣府男女共同参画局総務課専門官（成田支所調整指導官）
堀川　　豊　大臣官房予算課会計専門官（総務部会計課課長補佐）
髙橋　延之　消費・安全局畜水産安全管理課獣医事班国家試験係長（成田支所旅具検疫第１課）
加藤　彰朗　消費・安全局動物衛生課防疫企画班防疫企画係長（成田支所旅具検疫第１課）
岡崎　　崇　消費・安全局動物衛生課検疫業務班業務管理係長（企画管理部企画調整課）
栗原　順子　生産局総務課総務班人事第２係長（総務部庶務課人事第２係長）
山口　香子　東海農政局消費・安全部安全管理課畜水産安全係長（中部空港支所名古屋出張所）
関根リエ子　横浜植物防疫所羽田空港支所庶務課庶務係長（関西空港支所庶務課庶務係長）
河村　哲伸　国際獣疫事務局アジア太平洋地域事務所(関西空港支所検疫第１課)
藤田　　明　独立行政法人農林水産消費安全技術センター総務部管財課（総務部会計課）

◎畜産物・動物の輸出入検疫数量実績（平成 29 年 12 月、平成 30 年 1 月、2 月）

●輸入畜産物（前年同月比）
乳製品が加わったこともあり、12月分全体の輸入量は前年同月比129.5％、１月分全体の輸入量は前年同月比125.4％、２月分全体の輸入量は前年同月比126.8％といずれも増加しました。
●輸出畜産物（前年同月比）
12月分全体の輸出量は前年同月比98.4％と減少、１月分全体の輸出量は前年同月比104.8％と増加、２月分全体の輸出量は前年同月比87.9％と減少しました。

（単位：KG）

品目名			輸入			輸出		
			12 月	1 月	2 月	12 月	1 月	2 月
骨類	骨		2,008,866	1,729,602	1,436,031	184	240	148
	砕骨		1,204,994	1,566,390	1,094,391	-	-	-
	蹄角		51,763	70,176	34,229	-	-	10
	骨腱		63,646	56,145	14,627	-	-	-
	蹄角粉		107,000	-	62,854	-	-	-
	その他の骨		-	-	-	-	-	-
	計		3,436,269	3,422,313	2,642,132	184	240	158
肉類	牛肉	冷蔵	25,915,412	21,449,220	23,169,964	195,863	144,804	172,969
		冷凍	27,459,123	25,153,954	21,871,715	174,197	76,619	47,479
		その他	18,617	19,878	23,900	-	-	60
		加熱処理	267,025	306,543	161,569	-	-	-
	豚肉	冷蔵	36,837,697	32,370,215	30,669,687	2,073	1,049	1,963
		冷凍	59,738,904	62,423,319	53,987,580	390,645	348,406	333,550
		その他	6,283	10,248	8,509	8	8	8
		加熱処理	1,331,805	1,350,048	1,083,435	-	-	-
	めん羊肉		1,490,630	1,924,940	1,895,566	-	-	-
	山羊肉		38,777	27,271	38,770	-	-	-
	鹿肉		1,153	1,163	1,335	-	19	-
	その他の偶蹄類肉		-	-	29	-	-	-
	加熱処理その他の偶蹄類肉		-	-	-	-	-	-
	ハム		324,140	186,664	201,438	803	634	583
	加熱処理ハム		14,863	24,172	24,954	-	-	-
	ソーセージ		1,129,895	1,048,172	880,763	2,498	1,914	2,274
	加熱処理ソーセージ		1,530,594	1,377,639	1,222,768	-	-	-
	ベーコン		224,465	187,625	165,817	2,062	1,350	1,332
	加熱処理ベーコン		1,313	16,633	4,426	-	-	-
	馬肉		466,600	354,271	468,881	-	-	-
	うさぎ肉		432	1,819	535	-	-	-
	犬肉		-	-	-	-	-	-
	家きん肉		43,621,235	57,282,388	49,035,789	946,864	707,735	816,616
	家きん加熱処理肉		41,392,629	39,156,714	31,825,010	-	-	-
	非加熱その他の肉	牛	693,790	265,030	359,051	11,242	6,734	5,230
		豚	87,567	116,857	31,690	7,964	9,944	11,795
		家きん	94,097	79,801	30,835	26,548	18,273	6,588
		その他	100,902	126,494	43,578	46,268	35,969	32,190
	加熱処理その他の肉	牛	242,399	280,913	291,776	-	-	-
		豚	3,397,278	2,988,906	2,759,394	-	-	-
		家きん	3,396,211	2,710,115	2,772,970	-	-	-
		その他	569,993	500,154	396,924	-	-	-
	計		250,393,826	251,741,164	223,428,659	1,807,037	1,353,458	1,432,637

（単位：KG）

品目名		輸入			輸出		
		12月	1月	2月	12月	1月	2月
臓器類	牛臓器	96,392	68,686	91,137	-	-	-
	豚臓器	48,776	31,310	24,698	140	170	185
	その他の偶蹄類臓器	15,543	15,788	29,456	-	5	-
	加熱処理牛の臓器	-	-	-	-	-	-
	加熱処理豚の臓器	-	-	-	-	-	-
	加熱処理その他の偶蹄類臓器	-	-	-	-	-	-
	偶蹄類以外の臓器	149,834	90,742	45,986	432	408	369
	消化管等	2,763,353	3,027,739	2,527,729	32,578	32,262	34,248
	加熱処理消化管等	22,908	-	-	-	-	-
	ケーシング	459,412	323,529	451,260	-	-	-
	脂肪	3,201,153	3,162,376	3,063,585	-	163	-
	非加熱その他の臓器	27	21	1,581	-	-	-
	加熱処理その他の臓器	-	-	-	-	-	-
	加熱処理家きん臓器	218,110	187,518	184,951	-	-	-
	加熱処理その他の家きん臓器	-	-	-	-	-	-
	計	6,975,507	6,907,709	6,420,383	33,150	33,009	34,802
卵類	殻付卵	22,795	-	-	364,190	432,912	375,831
	液卵	552,150	655,853	498,076	-	-	1,728
	その他の卵	1	500	-	17,625	10,150	17,008
	計	574,946	656,353	498,076	381,815	443,062	394,566
皮類	牛皮	2,362,914	2,210,875	2,206,856	1,177,598	734,633	814,711
	豚皮	103,345	155,339	231,278	5,517,394	4,806,379	4,944,303
	めん羊皮	33,516	-	-	-	-	-
	山羊皮	53	-	-	-	-	-
	鹿皮	20,245	6,397	15,406	-	-	-
	その他の偶蹄類の皮	-	-	-	-	-	-
	馬皮	90,224	170,302	53,748	-	-	-
	うさぎ皮	29,400	41,550	41,550	-	-	-
	犬皮	-	-	-	-	-	-
	その他の皮	-	-	-	-	-	-
	計	2,639,697	2,584,463	2,548,838	6,694,992	5,541,012	5,759,014
毛類	牛毛	0	225	-	-	-	-
	豚毛	-	4,200	4,003	-	-	-
	羊毛	-	428	313	-	-	-
	山羊毛	28,529	10,265	17,741	-	-	90
	鹿毛	-	-	-	-	-	-
	その他の偶蹄類の毛	2,550	8,841	3,582	-	-	-
	馬毛	14,466	10,946	3,115	80	-	-
	うさぎ毛	3,150	5,470	2,100	-	-	-
	羽毛	231,885	242,855	149,070	17,898	15,469	25,167
	犬毛	-	-	-	-	-	-
	その他の毛	5,347	145	-	-	-	-
	計	285,927	283,375	179,923	17,978	15,469	25,257
乳製品類	チーズ	24,537,965	25,560,854	20,731,317	19,880	12,192	21,816
	バター	489,552	181,560	1,047,877	173	973	251
	偶蹄類動物の飼料用乳製品	5,961,282	4,709,418	5,160,182	-	-	-
	その他の乳製品	7,349,579	8,779,120	5,961,073	146,110	141,661	99,502
	計	38,338,377	39,230,953	32,900,449	166,164	154,826	121,569
ミール類	血粉	140,906	73,344	203,681	35	-	36
	肉粉	1,380	1	-	-	-	-
	肉骨粉	-	-	-	-	-	-
	皮粉・羽毛粉	-	-	-	-	-	-
	計	142,285	73,345	203,681	35	-	36

（単位：KG）

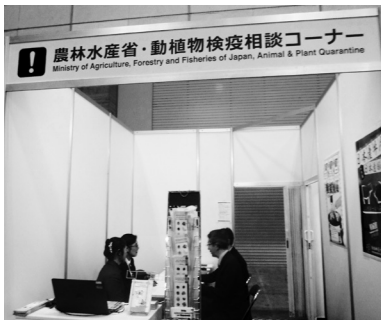
品目名		輸入			輸出		
		12月	1月	2月	12月	1月	2月
その他	精液（アンプル）	45,547	71,550	66,017	-	7	-
	受精卵（個）	74	390	338	-	-	-
	ふん・尿	-	-	-	-	126,750	253,500
	計	-	-	-	-	126,750	253,500
わら類	穀物のわら	23,298,160	21,068,090	17,297,040	-	-	-
	飼料用の乾草	-	-	-	-	-	-
	その他	158,100	127,690	77,850	-	-	-
	計	23,456,260	21,195,780	17,374,890	-	-	0
総計		326,243,095	326,095,457	286,197,030	9,101,354	7,541,075	7,768,040

※　解放重量ベースの速報値

動物名		輸入			輸出		
		12月	1月	2月	12月	1月	2月
牛	乳用繁殖用	322	-	-	-	-	-
	肉用繁殖用	-	-	-	-	-	-
	肥育用	1,485	-	1,469	-	-	-
	と畜場直行用	-	-	-	-	-	-
	その他	3	-	-	-	-	-
豚	繁殖用	106	-	-	-	-	-
	その他	-	-	-	-	-	-
めん羊		-	-	51	-	-	-
山羊		-	-	1	-	-	-
その他の偶蹄類		48	49	1	17	6	-
馬	繁殖用	29	-	23	1	2	1
	乗用	34	6	-	4	-	1
	競走用	414	-	401	-	-	-
	肥育用	-	-	-	-	-	-
	と畜場直行用	-	-	-	-	-	-
	その他	-	-	-	-	-	-
その他の馬科		1,453	1,239	311	11	2	2
うさぎ		18,770	14,977	33,494	-	-	-
初生ひな（鶏）		2,369	-	-	-	-	-
初生ひな（その他）		-	-	-	21,280	-	-
種卵（個）		338		-	-	-	-
蜜蜂（群）					8,791	9,347	7,499
指定検疫物以外の動物		513	548	326	501	454	454
犬		173	201	126	167	130	123
猫		-	-	-	-	-	-
きつね		-	-	-	-	-	-
スカンク		-	-	-	-	-	-
サル		1,122	-	751			

◎平成30年1月～3月の出来事

○香川県で高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)発生
　家きん及び家きん由来製品の輸出停止
　（平成30年1月11日）
○ドイツからの豚の家畜衛生条件締結
　（平成30年2月8日）
○フランスで低病原性鳥インフルザ(LPAI)発生
　一部の県からの生きた家きん、家きん肉等の輸入停止
　（平成30年1月4日～3月12日）
○米国でLPAI発生
　一部の州からの生きた家きん、家きん肉等の輸入停止
　（平成30年3月6日及び10日）
○スウェーデンでHPAI発生
　生きた家きん、家きん肉等の輸入停止
　（平成30年3月19日）
○ドイツでHPAI発生
　家きん肉等の輸入停止（平成30年3月22日）
○ブラジル産鶏肉のサルモネラ検査開始
　ブラジルの3施設における検査結果改ざんの情報を受けた対応（平成30年3月15日）
○豪州からの皮及び毛に対するe-Cert開始
　従来の紙面の証明書から、電子的証明書であるe-Certに変更（平成30年3月27日）
○中部国際空港と福岡空港に新探知犬
　中部国際空港及び福岡空港で、それぞれ3頭目となる検疫探知犬（蘭と次郎）が活動開始
　（平成30年3月16日）
○羽田空港で畜産物の輸出セミナー開催
　（平成30年3月16日）



動物検疫所は、毎年３月に幕張メッセで行われるFOODEX JAPAN（国際食品・飲料展）に、動植物検疫相談コーナーを出展しています。

今年も様々な分野の方から輸出入検疫に関する相談をたくさんお寄せいただきました。

来年も出展しますので、商談中に疑問などありましたら、お気軽にお立ち寄りください。

◎動検通信（企画管理部企画調整課長）

今年の横浜本所の桜は、３月の最終週に満開となりました。皆様が、この記事を目にする頃には新緑に覆われている頃と思われます。こうした中、動物検疫所では人事異動が行われ、全国各所で新たな人材を受け入れ、既存の業務体制を見直す機会となっているのではないでしょうか。

そして、この変化に併せるように、４月２日に家畜伝染病予防法施行規則が改正されました。この中で、畜産物の輸出検査において、相手国から動物検疫の証明書の添付を要求されていない場合には、一部のものを除き、検査を受ける必要がなくなるという見直しが図られました。輸出促進という流れに沿って、輸出手続の効率化、迅速化が望まれています。

一方で、輸出に当たり、動物検疫所の交付する証明書を添付する必要のある畜産物についての協議も多くの国と進められていると聞いています。こうしたものは、輸出者と動物検疫所が協力して適切に相手国の求める輸出検査を行い、清浄性の担保されたものが輸出されることを相手国から期待されています。ただ、輸入と異なり、畜産物の輸出経験の無い方々が輸出を検討している現状では、相手国の求める条件が、国、ものごとに異なり複雑に見え、動物検疫所の検査が判りづらいものとなっているのではないかと心配しています。実際、動物検疫所各所では、より一層、そうした実感を持たれているからこそ、個別の丁寧な事前相談や地元開催の輸出関連会議等への出席、輸出者の方々を集めた説明会の実施等、様々なコミュニケーションの取組を行っているのではと思っています。

結果として、各所で行われているこうした取組は、少なからず輸出量の増加に寄与するとともに、我が国から輸出される畜産物の信頼性に貢献していると思います。また、信頼性が増すことが、さらなる輸出品の増加につながるのかも知れません。

今後、輸出者の方々も検査に慣れるに従い、こうした取組の必要性は少なくなるのですが、輸出だけで無く、輸入に関しても同様に判りづらい面があります。この先、こうした取組を特別なものとはせずに、通常の対応として、輸入にも広げて行くことで、リスクの高い畜産物が輸入される危険性を無くして行けるのではないでしょうか。

最新のトピックスはこちらへ➡

動物検疫所のホームページ http：//www.maff.go.jp/aqs/
農林水産省のホームページ http：//www.maff.go.jp/
OIE のホームページ http：//www.oie.int/eng/en_index.htm

編集・発行　農林水産省
動物検疫所企画管理部
横浜市磯子区原町 11 － 1
（045）－ 751 － 5921